

2017年3月16日

『CLTと木質系セメントボードの 国産材トリプル構造による建築物の強靱化』が、 「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2017」 初代国土強靱化担当大臣(古屋圭司)賞を受賞。

ニチハ株式会社(本社:名古屋市、社長:山中龍夫)は、「第3回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2017」(主催:一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会)において、「初代国土強靱化担当大臣(古屋圭司)賞」を受賞いたしました。CLT 建築物に国産材を使用した弊社の木質系セメントボードを外装とその下地に使い、外壁部分を木材のトリプル構造にすることが、建築物のレジリエンス性を高める取り組みであると、高い評価を受けました。

弊社では、2015年の「ニチハエコ外壁プロジェクト」、2016年の「オフセットサイディングを利用した公共建築物の価値向上に向けた取り組み」に続き、この度、3度目の受賞となります。

ニチハは、セメントと木繊維の混合建材である窯業系外壁材の製造を1981年より開始し、製品の高密度化、高強度化を進めることにより壁自体の強度を高め、災害に強い住宅部材へと進化させてまいりました。2012年には、木材の生長過程で吸収したCO₂を閉じこめる(固定化する)効果に着目し、木繊維をすべて国産材とした「オフセットサイディング」の販売を開始。製品のCO₂固定量を見える化し、一般住宅の居住者に環境貢献の実感を促す活動を続けてきました。昨年の受賞では、「オフセットサイディング」によるCO₂固定量の見える化を公共建築物まで拡大し、自治体に対して低炭素化への貢献量を認定する活動に対して、民間から公的機関への認証という点で新規性があり、一般住宅の居住者のみならず地域コミュニティの人々に対して環境貢献意識を喚起することが、高く評価されました。

この度、受賞を受けた取り組みは、弊社の木質系セメントボード(商品名『センチュリー耐火野地板』『オフセットサイディング』)が、CLTの耐火性、経済性を補うことでその普及をサポートし、加えて、木材主役の新しい低炭素化モデルの展開に繋がる点が、高く評価されたものです。CLTと木質系セメントボードの国産材トリプル構造は、面構造による剛性強化というCLT建築の利点を活かしながら、弱点である耐火性能を簡易なパネル施工で補うことが可能で、CLT普及の当面のターゲットである木造3階建て共同住宅において必要な1時間準耐火構造を実現できます。また、超高耐候塗料による安価なメンテナンスコストという当製品ならではの経済性の高さが、CLT建築物のコストダウンを可能とします。加えて、CLTと木質系セメントボードを使った建築物に対して、使われた国産材が、2020年まで建物の排出するCO₂を相殺する取り組みを実施しております。これは、木材由来のオフセットクレジットにこだわった新しい低炭素化モデルでもあります。

弊社は今後も、これまで培ってきた中核技術をCLT建築物に応用することにより、CLT工法の確立・普及に大きく寄与する活動を通じて、より豊かでレジリエントな社会の実現に貢献してまいります。

※CLTとはCross Laminated Timber(クロス・ラミネイティド・ティンバー)の略で、ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した大判パネルです。欧米を中心にマンションや商業施設などの壁や床として普及しており、国内においても新たな木質構造用材料として注目されております。



ジャパン・レジリエンス・アワード
2017

「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」

全国各地で展開されている“強靱化”に関する先進的な活動を発掘して評価し、表彰する制度です。安倍内閣が提唱する国土強靱化(ナショナル・レジリエンス)の実現に向けて、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会によって創設されました。(今回は、強靱な国・地域づくり、人づくり、産業づくりに資する活動、技術開発、製品開発等に取り組む自治体、企業・団体、NPO、教育機関などから218件が応募)